

働くママが見過ごしがちなリスクを整理して伝えよう

編集部

働

くママは、仕事や子育て、家事に追われて大忙し。あれもこれもしなければと思いつつ、子どもを寝かしつけてからやるつもりが気がつく朝、ということも珍しくない。わが家のライフプランに向き合ったり見直したりする時間がなかなかとれないのも、仕方がないことかもしれない。

しかし、ある日問題が表面化したときに、資金や保障が不足していることに初めて気づいても、対処方法は限られてしまう。FPとしては、働くママが見過ごしがちなポイントを押さえておき、情報提供に努めたい。本特集では8つの視点から、そのポイントを解説している。詳細は各ページを見てもらうとして、ここでは概要に触れておきたい。

教育費を「かけられる」のか 検証することも必要

1 働き続けようにも保育園に入れなければ、収入は大幅に減少し、ライフプランの軌道修正が必要になる。「保活」に関する基本的な情報をアドバイスするとともに、入園できなかった場合のプランを示すこともFPには求められる。

2 共働きの場合、収入が多いため教育費をかけられると漠然と考えがちだ。本当にそうなのか、FPは家計の状況を確認するとともに、公的なデータを正しく読み解き、適切な教育費の目安を示したい。

3 日々の忙しさの中で、家計管理が上手にできずに悩んでいるママも多い。しかし、「家計管理をすることで、どうなりたいのか」が明確でなければ、

ば、長続きはしない。目的を明らかにしたうえで、楽しみながら無理なくお金をコントロールする方法を伝えたいものだ。

4 多くの家庭の場合、ママよりもパパに手厚い保障をかけていることが多い。しかし、ママの収入を前提とした生活をしているのなら、ママにもしものことがあった場合の収入減は家計に大きな打撃になる。パパの働き方も変化して収入が減少したり、家事代行などの新たな支出が増えたりする可能性も考えて、保障設計を行いたい。

本当に共働きを続けるのか ローンを組む前に確認する

5 共働き夫婦が住宅ローンを組む際に考えるべきは、これから先も本当に2人で働き続けるのか。出産や子育てで仕事を辞める可能性があるなら、それを前提に住宅ローンの組み方を考えるべきだ。ペアローンや収入合算（連帯保証型・連帯債務型）の使い分け方もアドバイスしたい。

6 晩婚化・晩産化の影響で、子育てをしながら親の介護も行わなくてはならないダブルケアに、いつ直面するとも限らない。FPとしては、介護にかかる費用の目安や、働きながら介護を続けるために会社に義務付けられている制度などについて、情報提供に努めたい。

7 将来受け取れる年金額が高い共働き世帯だが、現役時代の高い支出水準を減らすのは難しい面もあるため、早いうちから資産運用に取り組むことも求められる。税制優遇制度を上手く使いながら、無理なく続けられる方法をアドバイスしたい。

8 働くママの中には、配偶者と死別・離婚し、1人で子どもを育てている人も少なくない。FPとしては、シングルマザーに対する手当て・助成制度を押さえたうえで、万一の場合のリスクマネジメントのポイントを伝えたい。

以上のように、働くママには見過ごしがちなポイントがいくつもある。FPがアドバイスすることで、早めの対応を促してほしい。

特集

働くママへのFPアドバイス

忙しさで見過ごしがちな生活設計の落とし穴